

SDGs推進における地方自治体の役割

@SDGs全国フォーラム長野2020

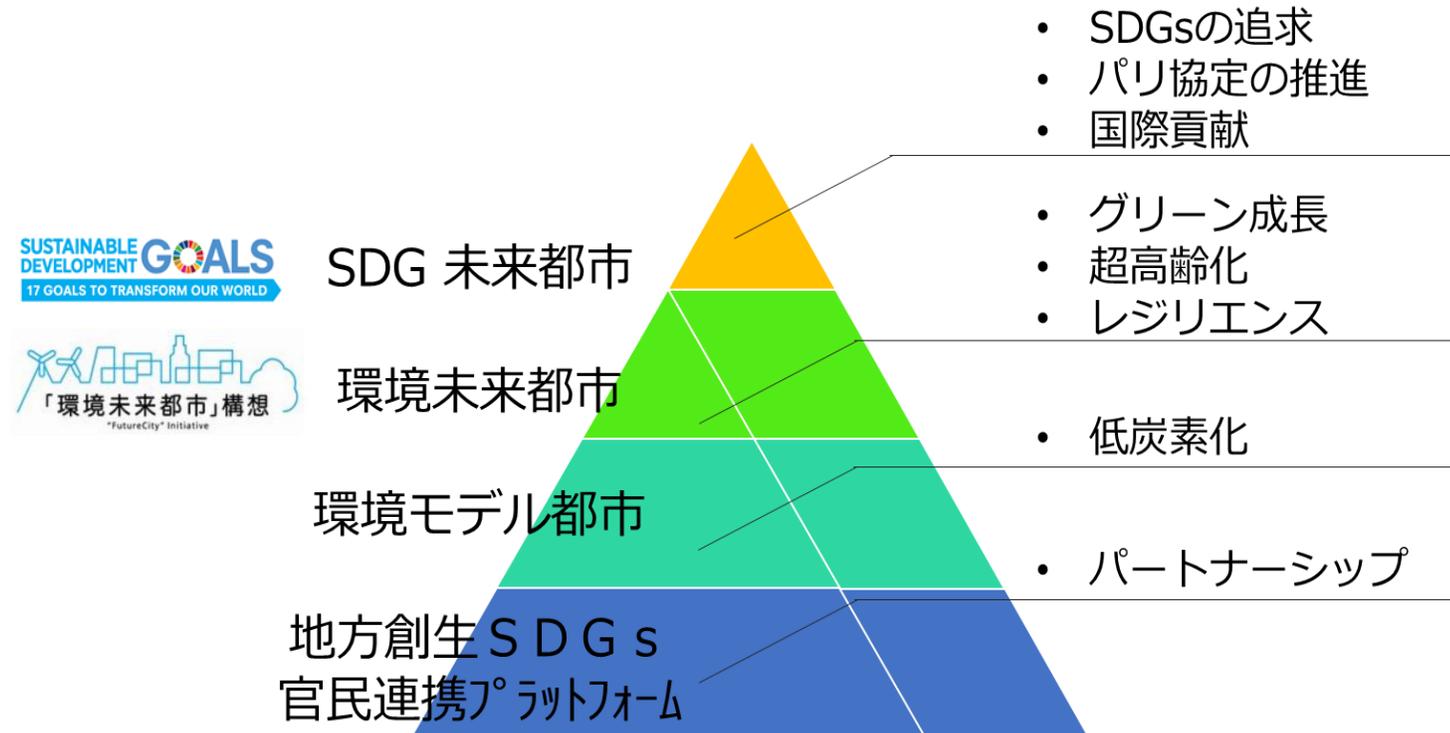
ヨコハマSDGsデザインセンターセンター長

信時正人

20210130

環境モデル都市・環境未来都市からSDGs未来都市へ

- 国は地方公共団体によるSDGsの達成に向けた取り組みを公募し、2018年6月、全国29の都市・地域が選定された。（2010年次世代エネルギー・社会システム実証地域の選定（METI））



これまでの SDGs未来都市への“準備”

・・・学び経験し実施してきたストーリー、そしてこれから・・・

▷環境モデル都市

⇒ 己を知ること、21世紀型環境施策へのアプローチ、
庁内横連携、自治体連携etc.

▷次世代エネルギー・社会システム事業

⇒ 企業との連携、市民との連携、異質の主体とのプロジェクト推進経験etc.

▷環境未来都市

⇒ 環境・経済・社会（トリプルボトム）の追求、自然インフラ、人工的インフラ（エネルギー、上下水道、廃棄物処理、医療福祉等）の課題認識と課題解決、都市マネジメントetc.

⇒横浜市は、これまでの上記の“準備運動”の上でSDGs未来都市となった

17の目標値を目指して横浜市なりの”ストーリー”を作っていける状況にある

SDGsデザインセンターはストーリーを作っていくときのハブにもなるが、仲介役であり、触媒でいたい。

SDGs未来都市・横浜の実現を目指し、自らもステークホルダーとして、連携によって課題解決に取り組む、目的志向・実践型の中間支援組織（公・民・学・市民）

市民 事業者 金融機関 教育機関 地域活動団体

多様なステークホルダーのニーズ・シーズ



3側面の統合的解決を図る“横浜型大都市モデル”創出

SDGs未来都市・横浜 | 環境を軸に、経済や文化芸術による新たな価値・賑わいを創出し続ける都市

SDGs達成への貢献

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



様々なプレイヤー

公的資金・制度

公
行政

総合力

居住促進や企業誘致を
図りたい

地域に必要なサービス・生活環
境を効率的に確保したい

NPO 行政でできない公的サー
ビス・活動を補完したい

新しい知見で地域に貢献
したい

大学研究者

安全で快適・利便性の高
い生活環境を守りたい

活動力

市民

楽しく刺激的なライフ
スタイルを実現したい

Mass-
Collaboration

研究成果を地域の中で実
証・事業化したい

研究機関・企業

先端の知見

商業者 多くの来街者を引
き付けたい

地域の中で実践的に学び・
活動したい

学生

資金力

民

土地や床の販売のために、地
域の魅力を高め、PRしたい

専門的知見をより活かして
地域に貢献したい

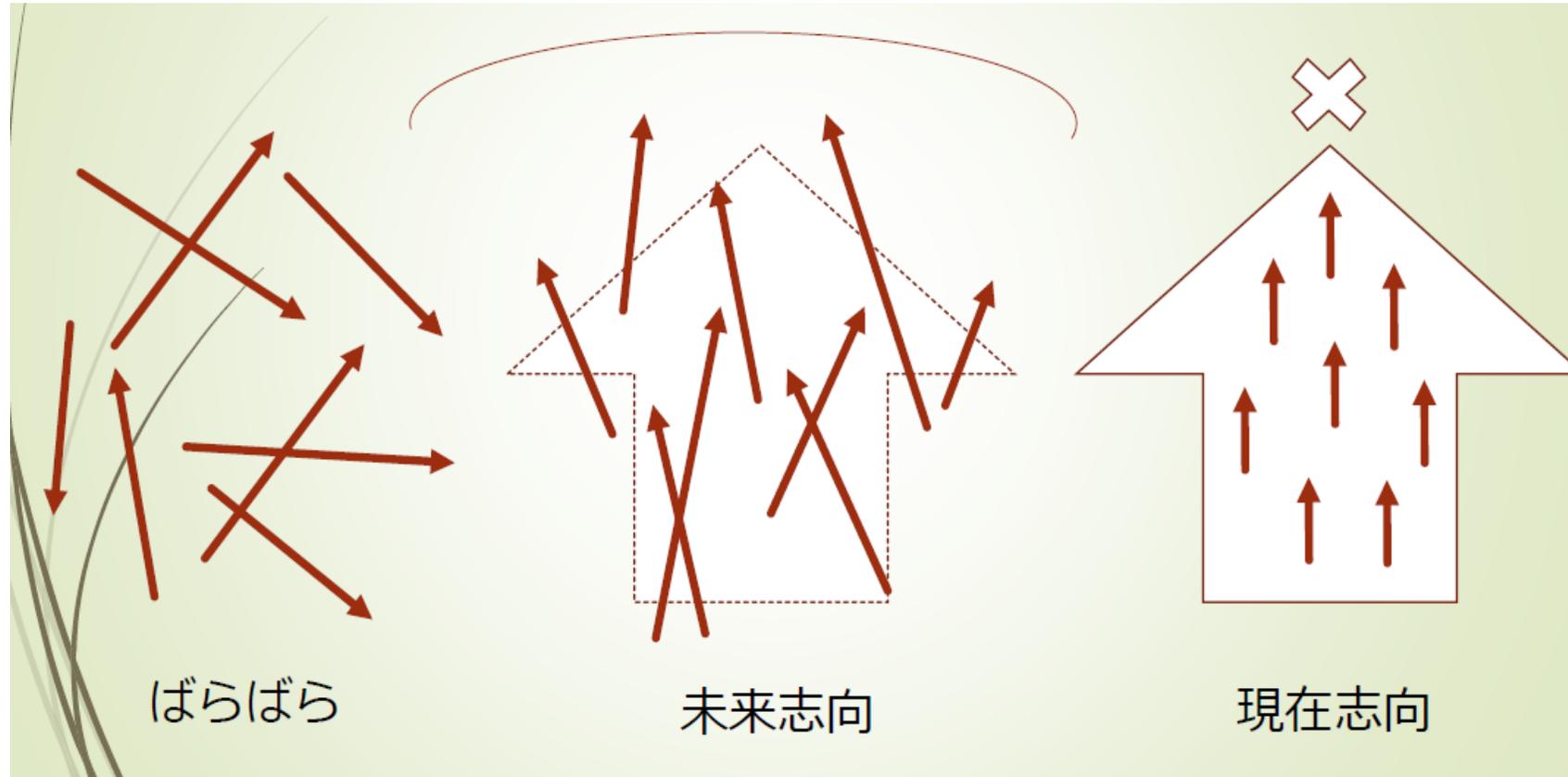
学

開発事業者

専門家

ノウハウ・企画力・調整力

自律・分散・協調(公・民(市民)・学)



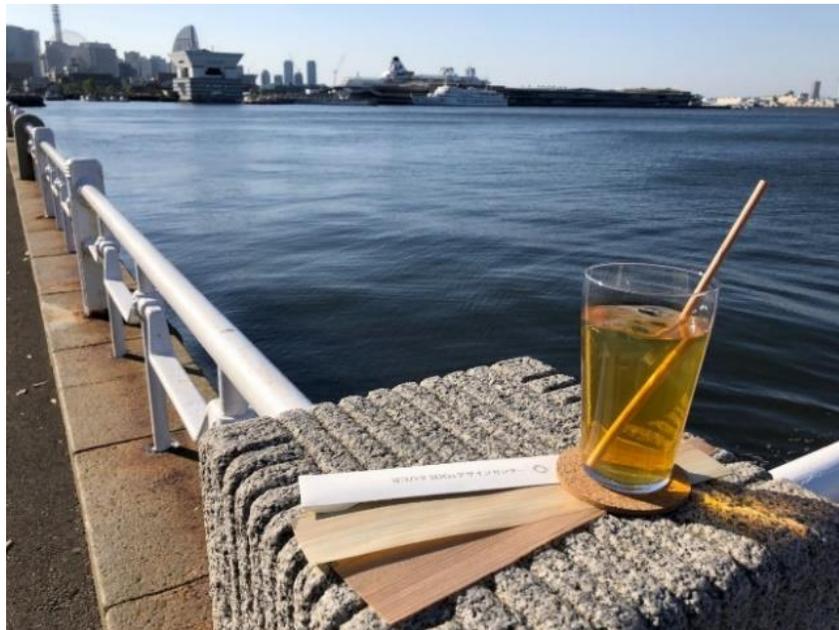
それぞれの特徴を活かし合い、その上で大きな方向性の一致の元進めていくこと
オーケストラの如く……楽譜=SDGs

プロジェクト1

ヨコハマ・ウッドストロープロジェクト



- ・ 大気中のCO₂を吸収した木材を原料とする「木製ストロー」の普及を通じ、脱炭素化や海洋におけるプラスチックごみ問題、森林環境保全等の意識啓発に取り組む
- ・ 市民への普及啓発、市内事業者等への利用拡大に向けた取組を進め、地産地消を目指す

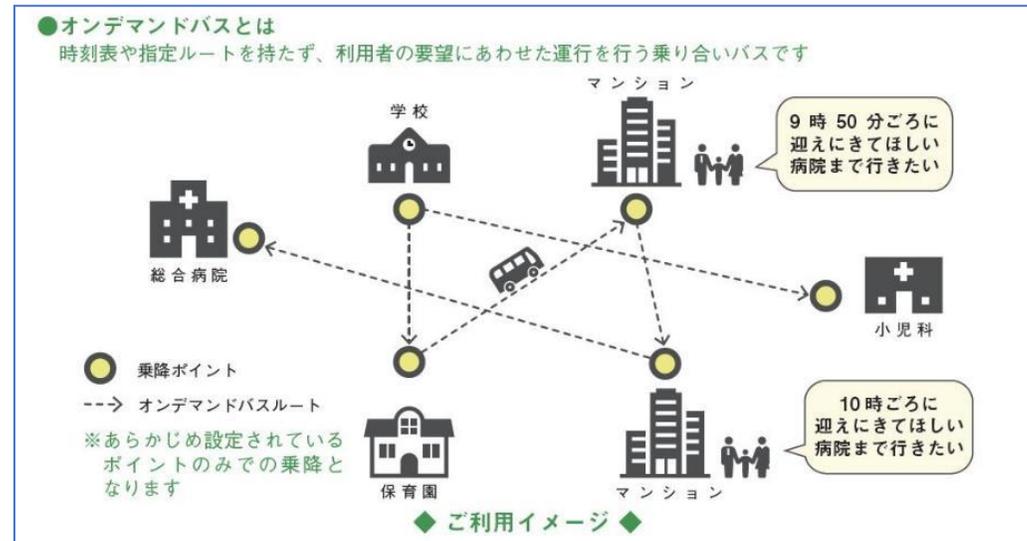


プロジェクト2

“オンデマンドバス実証実験”（旭区若葉台）



- 「住みたい」「住み続けたい」まちの実現に向け、地区内にオンデマンドバスを導入。子育て世代・高齢者などが移動しやすい快適なモビリティ環境の形成を図る。



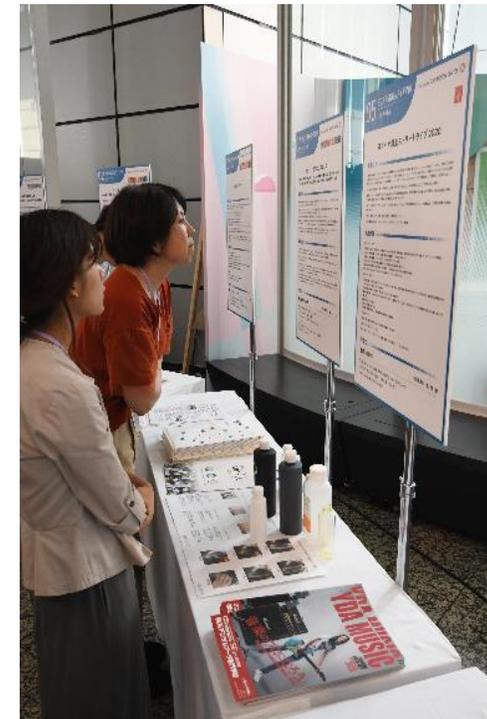
あなたの「やる気」をサポート！



ヨコハマSDGsアイデア博

～イノベーションでSDGsに挑む～

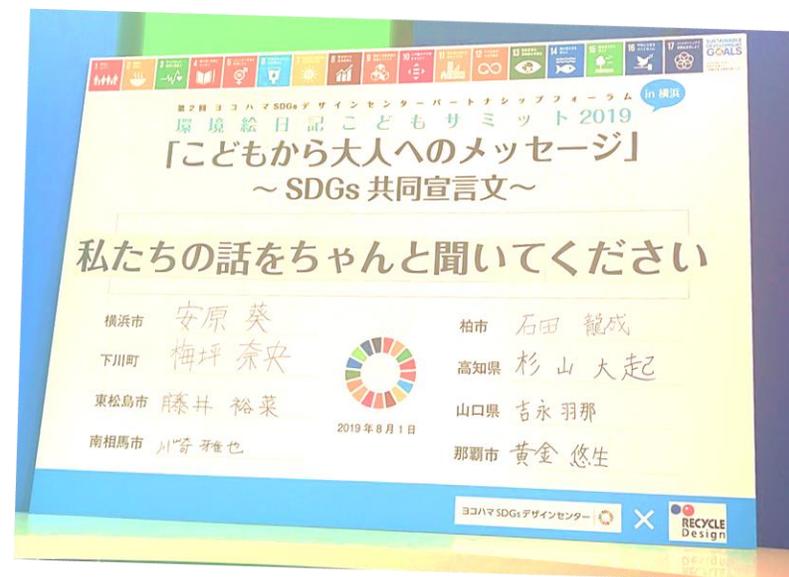
- デザインセンター会員(事業者・市民活動団体など)による、SDGs達成に向けたアイデアやアクション(提案)を広く発信し、イノベーションを創出を図る
- 15の提案の実現に向けて、デザインセンターがサポート(支援)を実施



環境絵日記こどもサミット2019



- 横浜市資源リサイクル事業協同組合とヨコハマSDGsデザインセンターとの共同プロジェクト
- 全国8都市から集まった、環境絵日記に参加した子どもたちの代表者が、自分たちの描く未来のまちづくりについて話し合った。
- 参加都市: 北海道下川町、宮城県東松島市、福島県南相馬市、千葉県柏市、神奈川県横浜市、山口県、高知県、沖縄県那覇市
- 登壇した子どもたちからは、「自分たちの意見が言えてよかった」、「環境にやさしいことをするには、もっといろいろ考えないといけない」などの感想があり、持続可能な環境づくりを考える良いきっかけになった。



デザインセンター会員による環境コンソーシアム



～脱炭素化の実現に向けた製品・サービス・取組等の発掘・普及展開～

■ 温室効果ガス削減につながる製品・サービス・取組を発掘し、広く普及させていくことを目標に、脱炭素化実現に関心を持つ様々なデザインセンター会員によるコンソーシアム

(46団体※現時点)

■ 7月からテーマ別に「減・脱プラスチックのサプライチェーン・製品開発」など、4つの検討ワーキンググループを立上げ



横浜市 SDGs Bizサポート補助金

補助の対象となる方（申請者）

- 横浜市内に事業所を置いている、商業・法人登記を行った会社・団体
- 主たる事業所が横浜市内にある個人事業主

対象となる取組

主に横浜市内を対象地域とする、新しい暮らし方に対応した地域の課題解決と、SDGsが掲げる17ゴールの達成につながる未来を見据えた取組（事業）

例えば・・・



太陽光発電設備
や蓄電池を導入
して災害時にも
活用します！



AI, IoTを活用し
た移動販売サー
ビスを提供して、
買い物を便利
に！



環境にやさしい素
材を使って
フェイスシールド
をつくります！



SDGsを学べる
オンライン映像を
制作・配信しま
す！

受付期間

2020年7月15日～8月31日
(受付終了)

事業実施期間

2020年10月1日～
2021年2月末日

補助額

最大200万円
(補助対象経費の2分の1以内)

■ 87事業者が決定

■ デザインセンターが広報支援、コンサル支援などを実施

横浜市 SDGs認証制度“Y-SDGs”

■ 目的

事業者の皆様が認証制度を活用しSDGsに取り組むことで、持続可能な経営・運営への転換、新たな顧客や取引先の拡大、さらには、投資家や金融機関がESG投資等の投融資判断への活用につなげることを目指します。

■ 対象となる事業者

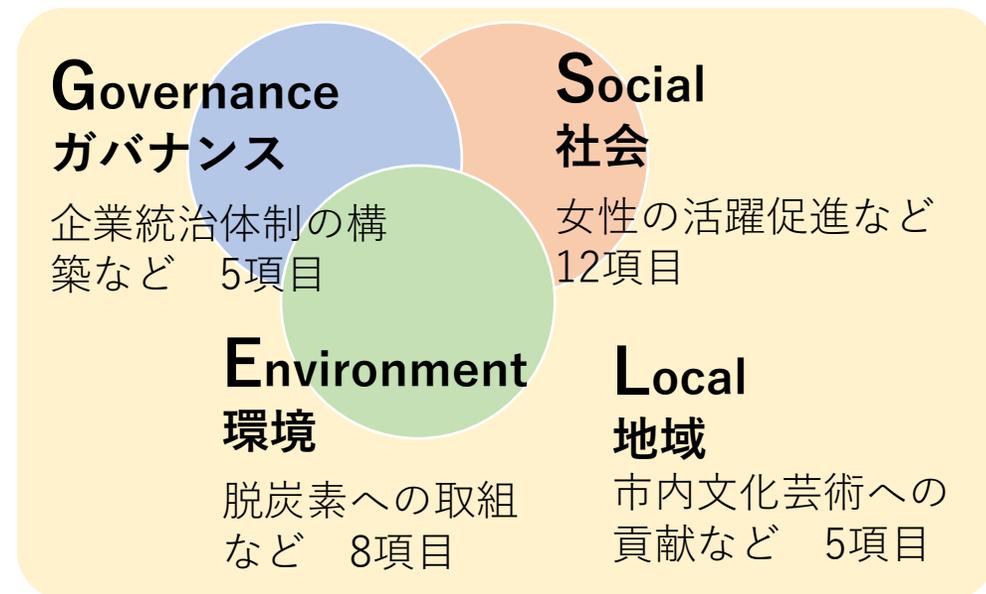
SDGs未来都市の実現及びSDGs達成に向けて貢献する意思を持つ事業者

(企業・各種団体・NPO法人・市民活動団体等)

※デザインセンターの会員登録の他、応募にあたってのいくつかの要件があります。

■ 評価項目

チェックシート内の環境、社会、ガバナンス及び地域の4つの分野、30項目で評価をします。



プロジェクト7

■ 認証区分

各評価項目における取組状況によって、3つの区分で認証します。

認証区分	認証マーク	解説
【最上位】 Supreme (スプリーム)	 	環境・社会・ガバナンス・地域の4分野において高いレベルで取組を進め、SDGsの達成に向け極めて高く貢献するとともに、模範として更なる高みを目指していただく事業者（今年度2事業者）
【上位】 Superior (スーペリア)	 	4分野の取組を進めることで、SDGsの達成に向け高く貢献するとともに、更なる高みを目指していただく事業者（今年度4事業者）
【標準】 Standard (スタンダード)	 	4分野において取組意欲を持ち、SDGsの達成に向け貢献するとともに、より高みを目指していただく事業者（今年度23事業者）

■ 認証期間

認証を受けた月から2年間

※期間中により上位の認証取得を目指し再度申請することも可能です。

■ 認証メリット

- ① 認証マークを名刺や企業等のホームページ等に表示できます。
- ② 認証事業者名や取組内容を、横浜市やデザインセンターのホームページ等でPRします。
- ③ デザインセンターが主催する各種マッチングイベントやセミナー等へ優先参加できます。

※その他、金融制度等における優遇措置などの追加メリットも検討します。

デザインセンター・アカデミア

- デザインセンター・アカデミアとは、次世代を担う「児童・生徒・学生」たちを中心に、外部の様々なリソースや機会とつながることで、多様なステークホルダーとのパートナーシップを形成し、各々が学び、協働することのできる場のこと
- 小中高大連携プロジェクトの実施や学校関係者の相談窓口、学校と企業、団体との連携を推進する機能を備える予定



ウェビナー（今年度は1月21日から開始中）やプロジェクトの実施を予定（検討中）

